



第 64 回（平成 23 年 8 月 10 日）定例会の講演

## 「シベリア抑留の意味とその実態」について

石狩市郷土研究会 山口福司氏



筆者の伯父がチタに抑留されていたこともあって、「シベリア抑留」の実態は他人事とは思われませんでした。

スターリンの非人道ぶりには言葉もありません。飢えと寒さに命を落とした日本人捕虜の衣服をはぎとり、冷凍マグロか丸太のようにまとめて墓穴に投げ込ませたというのです。しかも、その墓とも言えぬ墓すら証拠隠滅をはかって破壊したというではありませんか。

先生のお話と資料から推察するに、スターリンは、日本兵を戦争捕虜として、国際法規に則って扱おうという心算ははじめからさらさら無く、ヘーグ陸戦規則違反を承知のうえで、日露戦争の仇討ちとばかりに、復讐主義に燃え、非人道的懲罰的苦役に酷使すること、それ自体を目的にして抑留したとしか考えられません。そうでなければ民間人まで「人狩り」しないと思います。

その「人狩り」の規模も驚くばかりで、満州や樺太などから、実に民間人・兵士あわせて 100 万人以上を「拉致」したと言います。

今次大戦で犠牲になった人は 300 万人と言われています。それと比較すれば、その規模を「原爆 2 箇所」などという比喩では表現しきれないものではない。ヒトラーのユダヤ人狩りに匹敵する残虐さだと思います。

スターリンの犯罪はこれだけではありません。彼は自らが署名したポツダム宣言に背反して、日本が無条件降伏した後で、武力で千島列島——私はこれは北海道に付属している島だと確信していますが——と、歯舞・色丹まで侵攻しました。そればかりか、さらに、領土的野心を露骨にして、北海道を留萌一釧路の線で分割し、北側を領有しようという要求を臆面もなく連合国側にみとめさせようとしてきました。これについて私にはひとつの忘れられない思い出があります。当時私は航空士官学校生徒でしたが区隊長に「ソ連が北海道を占領するときは、占領地で遊撃戦を戦え」と言われたものです。不安と怒り、そして当惑が入り混じった複雑な心理に追いこまれました。

こう見てくると、スターリンは果たしてマルクスやレーニンの正統な継承者だったのかどうか怪しくなります。私の知る限り、マルクスは「非人間的なものとは無縁」をモットーに生命・自由・幸福追求を生得権と謳ったアメリカ独立宣言を惜しめない賛辞で歓迎しました。また、レーニンの、無併合・無賠償・民族自決を原則とする第一次大戦終結の訴えはウイルソンの 14 ヶ条を誘出し、それから国際連盟と世界政治が動く、その最初の衝撃だったと考えます。こうしてみるとスターリン主義はマルクスやレーニンの思想を継承しているとは評価しがたいのではないのでしょうか。それはともかく、戦争は人間を非人間に墮落させる恐ろしいものだということを再認識させるお話でした。

（文責：吉田寛義）

## 東北藩兵の幕末北方警備

— 津軽藩、会津藩、庄内藩のことなど —

前田 川崎吉充氏

### 1. 幕府の対ロシアに対する防衛策

#### (1) 第 1 次

日本の幕末期に、ロシアは南下政策として蝦夷地に圧力をかけ、特に 1800～1807 年にかけて厳しく、樺太・宗谷・千島地域において略奪行為などがあった。

それに危機感をいだいた幕府は、1799 年に東蝦夷地を直轄し、1807 年には全蝦夷地を直轄、延べ人数 7,100 名の兵隊を動員して警備にあたった。

1807～1809 年には利尻・宗谷・樺太地域でのロシアの姿は見られなくなり、1809 年、この地の常駐人員を削減した。また、ゴローニン事件解決などの日露関係改善に伴い、1821 年、直轄を廃止。

#### (2) 第 2 次

日露和親条約（1854 年）締結以降も、樺太問題を抱えてロシア情勢は緊迫、1855 年、全島を直轄する。東北 6 藩に、蝦夷地の分割領地を与え、開拓と警備にあたらせた。

### 2. 「津軽藩」斜里警備の悲劇

警備の状況については配布資料を参照していただくこととして、これに関する調査が縁で繋がった斜里と弘前について述べておこう。

警備隊の生活環境は死者 72 名を出すような苛酷な状況であった。この状況に関する資料が、1954 年に北大の高倉新一郎の目にとまり、その資料調査をきっかけに、斜里と弘前が友好都市として交流が始まり現在も活発な活動が続いている。その代表的なものは「斜里ねぶた祭り」である。これは、警備で亡くなった方々の慰霊の意をもって行われている。毎年 7 月下旬に行われており、青森の祭りのような勇ましさはないが、綺麗で、荘厳な祭りである。

### 3. 「会津藩」の派兵警備

ここで特筆すべきことは、遠征経路である。

〔往路〕 会津—青森—三厩—松前—神威岬—利尻沖—久春古丹（大泊）

〔復路〕 久春古丹（大泊）—宗谷—（内陸—縦断 石狩川—千歳川）—勇払—（海路太平洋南下）—三厩—青森—（陸路）—福島—会津

この経路で注目することは往路において海上を直行していることである。ここから「早く警備に就きたい」という、指揮官内藤源助の意気込みがうかがわれる。

〔警備状況については配布資料参照〕

### 4. 「庄内藩」の警備（開拓移住含む）

庄内藩は、幕府の防衛策として下命された東北各藩のうち、財政が比較的良かったため積極的であった。しかし、食料自給困難などの状況に陥り、1865 年保護打ち切り、1868 年明治維新前後前面引揚げとなる。

土着兵農制は失敗したけれども、明治政府になってからの屯田兵制度に繋がったのではないかという評価もある。

〔警備状況については配布資料参照〕



#### 次回の予定

次回（10 月 12 日）は、アイヌ語地名研究会の渡辺隆氏の講演「手稲の地名について」と、斎藤隆夫氏の会員発表「手稲史の中の『乙黒製油所』」を学習する予定です。

会場は、視聴覚室です。

（文責：小田真二）